

令和2年度 卒業式学長式辞

皆さんの卒業を祝うかのように桜が咲きました。皆さん本当におめでとうございます。この一年、日本中本当に心が晴れる日は有りませんでした。皆さんはステイホームの中、オンラインでパソコンやスマホとにらめっこの日々が多かったと思います。大学では、「寄るな、触るな、騒ぐな」三密になるなと喧しく言われたと思います。このような状況の中関係者の努力で卒業式が出来ました。本当に良かったと思います。ただ、皆さんの卒業をいちばん喜んでおられる保護者の出席が叶いませんでした。コロナ禍の中やむを得ないとは言え残念です。

学位記を与えられた各学部卒業1032名の皆さんおめでとうございます。教職員の皆様、今日までのお骨折りに感謝いたします。有り難うございました。また、学長賞、浄土門主賞始め、各賞を受賞された皆さん、皆さんの在学中の努力と成果に敬意を表し、お祝い申し上げます。おめでとうございます。

コロナ禍は100年に一度の災厄です。ウイルスによる感染症はヒトである人間は避ける事は出来ません。たまたまこの100年目に当たり辛い経験をしている皆さんに一つだけ申し上げて餞（はなむけ）といたします。

「慣性に囚われるな」という事です。振り子の等時性のような物理学の法則ではありません。前例、慣れ、慣習、しきたり、過去の成功体験に囚われるなという事です。今、NHKの大河ドラマで渋沢栄一の生涯を描いた「青天を衝け」を放映しています。日本の近代資本主義の父とも言われる彼の考え方は「富の根源は仁義道徳にあり」と言う言葉に端的に示されています。仁義と言うと義理、人情のヤクザや渡世人の世界かと思いますが、彼のいう仁は親子、兄弟、親戚、同郷の人々への思い遣りの事で、義はもっと広く、日本や世界への思い遣りを行っているようです。彼の著書「論語と算盤」では空間、時間を超えた思い遣りと人として踏み外してはいけない道理を大切にした経済について言っているようです。

例えば、今を乗り切る為に子や孫が困るような金を使うな、借りるな。困っている人の土地を安く買い漁り高値で売りボロ儲けするな、独占的に利益を貪るな等、品のない商売をするなと言っています。資本主義には厳しいルールがありますが、ルール通りなら何でもいいわけではなく、論語にあるように「己の心に疚（やま）しくなく行動せよ」と言っています。彼はこの考えを生涯貫き、第一銀行、キリンビール、帝国ホテル等、その後の日本経済を牽引した500もの企業と日本の社会福祉のモデルになった養老院や孤児院等600に及ぶ社会公共事業に関わりノーベル平和賞の候補になっています。また新一万札の肖像画にもなる事が決まっています。彼は将に日本における経済人の代表的人物です。

渋沢栄一を評して作家の城山三郎さんは彼ほど「受信機能」と「発信機能」のバランスが取れていた人物はいないとその著作「雄気堂々」で述べています。身分の貴賤上下を問わず相談に来る者の話、情報、意見を真剣に夜中でも聞き、結果的に彼の所に情報がよく集まりました。又、彼は建白魔と言われるくらいよく誰にも自分の考え、意見を言いました。将軍後見職の徳川慶喜にも何度も何度も意見を言っていますし、あの西郷隆盛にも「入るを量りて出づるを為す」、つまり、収入の見込みを立て、支出を考えなさいと意見しています。これは財政の基本です。明治新政府のリーダーの大隈や大久保達にも官の横暴を説き、民の力の結集の大切さを説いています。情報を集め、自分の意見を広く発信する。150年前に情報の大切さを知り、その扱いに長けていました。だから、日本歴史上最大の革命である明治維新を乗り切り、後進国の日本に近代資本主義を根付かせる事が出来たと私は思います。

渋沢栄一は若い時代倒幕を志しますが皮肉にも最後の将軍徳川慶喜に仕えることになったり、不平等な貿易に怒りを覚え、武器を密かに買い横浜焼き討ちを真剣に企てていたり、将に「青天を衝け」の波乱万丈の生涯で天寿を全うします。豪農の息子とはいえ貧しい農村の生まれ、徳川末期の不条理な身分制や田舎の因習の中で育ちますが持ち前の前向きな気質、人を惹きつける大らかさと細やかな心遣い、緻密な計算力等、彼の人間的な魅力が時代を切り拓いていきますが、その根底に囚われない心があったと私は思います。「慣性に囚われるな」の意味する所をよく考えて下さい。

明日から皆さんはオール東海10万人の一員です。133年の歴史と伝統に輝く東海学園同窓生の一員です。これまでは受信機能重視の生活だったと思いますが、これからは囚われない心で発信機能の充実に心して努めて下さい。皆さんの前途を心から祝福し式辞といたします。おめでとうございます。

令和3年3月16日
東海学園大学学長 松原武久